

第3学年道徳科学習指導案

杉本 遼（授業者）

1. 基本情報

- ・日時：2016（平成28）年12月6日（火） 第5校時（45分）
- ・場所：東京学芸大学附属大泉小学校 3年うめ組教室
- ・学年：第3学年 30名（男子14名，女子16名）

2. 主題名（題材名）

主題名「命ある生き物」（D 生命の尊さ）

題材名「ヒキガエルとロバ」【わたしたちの道徳3・4年】

※本実践は、3時間連続の大主題「生き物・自然の命と関わっていくには、どんなことが大切なのだろうか？」として「自然愛護」や「感動，畏敬の念」の内容も含めた学習として実施しているが、以下においては、分析対象とした第1時を中心に示すこととする。

3. 主題について（題材について）

3.1 主題の特性

（1）教科からみた特性（主題設定の理由）

内容項目D－19〔第3学年及び第4学年〕「生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること」に基づいて指導するものである。

ここでいう生命は連続性や有限性を有する生物的・身体的生命，さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えられている。この内容項目は，主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心となるが，生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければならない。中学年の段階においては，現実性をもって死を理解できるようになる。そのため，一つしかない生命の尊さを知ったり，今ある生命は，遠い世代から受け継がれてきたものである不思議さや雄大さに気付いたりするなど，生命の尊さを感じ得るように指導する必要がある。

本主題では，生き物の命について考えることを通して，生命のあるもの全ては自分と同様に尊いものであるとして，大切にしようとする態度を育んでいきたい。体の大きさに関係なく平等に生命があり，一つしかないことに気付かせることで，生命の尊さを感じ得るよう指導に当たりたいと考えている。

（2）汎用的スキルや態度・価値の育成の観点からみた特性

汎用的スキルの中では「批判的思考力」「問題解決力」「先を見通す力」「メタ認知」が特に本単元と関連のあるスキルであると考ええる。また，態度・価値の中では「他者に対する受容・共感・敬意」「愛する心」「よりよい社会への意識」を，本主題を通して育てることができると考えられる。

【汎用的スキル】

○批判的思考力

共感的（どんな気持ちか？など）に考える発問だけでなく，分析的（～したのは，なぜか？など），投影的（～ことをどう思うか？など），批判的（自分だったらどう考えるか？など）な発問を取り入れる。教材や人物に対する多様な立ち位置を生かした発問を取り入れ，多様な視点から多角的・多面的に考え，根拠を明確にして自分の納得いく答えをもてるようにしていく。

○問題解決力

児童の気がかりから問題意識を生み出す。思考のずれから，生活テーマを生み出したり，児童の教材の受け止めから考えを束ね教材テーマを選択させたりし，主体的に学習できるテーマを設定していく。毎時間の学習でテーマに対する自分の納得できる答えをもつ過程を積み上げていく。

○メタ認知

道徳ノートをサポートフォリオとして、自分の学びを蓄積していく。また、自己評価シートを用いて、自分の学びを評価させていく。自己評価活動を通して、自分が考えていることや理解の程度、感じていることを自分自身で感じ取り、それに応じて思考や学び、行動などをよりよい方向にコントロールする力を伸ばしていく。

【態度・価値】

○他者に対する受容・共感・敬意

道徳の学習では、話し合いを通して、友達の考えを受け入れ、多様な考えに触れることで多面的・多角的に考えていき、自分の生き方への考えを深めていく。そのため、道徳の学習では、他者の考えを理解し、受容・共感する態度や自分自身を高めていく心は不可欠であると考え。そして、道徳の学習での話し合いを繰り返していくことで、他者の考えを理解し、受容・共感する態度や自分自身を高めていく心はさらに育まれていくであろう。本主題では、「友達の発言の中で「生き物と関わっていくこと」に対して、「参考になった発言」「新しいことに気付いた発言」はあったか。」という、発問を大切にしていきたい。友達の発言への受容・共感から学んで成長できたことを実感することで、他者に対する受容・共感する態度を育んでいく。

○愛する心

本主題は、生き物や自然を愛する心に直結している。生き物や自然について、愛情や尊重する気持ち、大切に思う心を育てていく。

○よりよい社会への意識

身近にある環境問題に対し、今の自分に何ができるかを考えていくことで、生活をよりよくする意識や、自然や生き物に関わり、大切なことや良いこと、必要なことを実践しようとする態度を育んでいく（※なお、本内容は、「愛する心」と併せて大主題全体の関わりから位置づけられる情意特性であるが、ここに含めて示すこととした）。

3.2 主題の目標

(1) 主題の目標

生命のあるもの全ては自分と同様に尊いものであることや体の大きさに関係なく平等に生命があり一つしかないことに気づき、命ある生き物を大切にしようとする態度を育む。

※なお、全3時間連続の大主題の視点では、以下の目標を設定した。

○自然や生き物の美しさを感じ取る心を大切にしていこうとする心情や自然環境や生命を大事にしていこうとする態度を育む。

(2) 汎用的スキルや態度・価値の観点からみた目標

①汎用的スキル

- ・与えられた情報、他者の考えから多面的に思考し、根拠を明確にして、自分の考えをもつことができる。（批判的思考力）
- ・自ら課題を発見することや、自分の意見を言ったり友達の考えを聞いたりして課題を解決することができる。（問題解決力）
- ・自分が考えていることや理解の程度、感じていることなどを自分自身で認識し、自分の学びをよりよいものにしようすることができる。（メタ認知）

②態度・価値

- ・友達が考える多様な考え、価値観を理解、共感し、受け入れ自分の考えを深めることができる。（他者に対する受容・共感・敬意）
- ・自分と生き物や自然との関連について考えて、命あるもの全てを愛し、大切にしていこうとする。（愛する心）
- ・自然環境や生命ある生き物に対し、今の自分に何ができるかを考えていくことで、生活をよりよくす

る意識や、自然や生き物に関わり、大切なことや良いこと、必要なことを実践しようとする。(よりよい社会への意識)

3.3 児童の実態

授業の前に行った実態調査の結果は以下のとおりである。

①命は大切だと思うか		②命を大切にしていると思うか		③生き物は好きか		④自然の中にいることは好きか	
A	29	A	20	A	18	A	22
B	1	B	8	B	4	B	7
C	0	C	2	C	5	C	1
D	0	D	0	D	3	D	0

※Aとてもそう思う、Bそう思う、Cあまりそう思わない、Dそう思わない

⑤知っている自然や環境の問題 (自由記述)		⑥生き物や自然にすごいな・ステキだなと思った経験 (記入欄3つ、自由記述)				
地球温暖化	12	3種類	16	➡	自然、生き物をステキ・すごいと思ったことがある	9
外来種	1	2種類	8		生き物をステキ・すごいと思ったことがある	17
2種類以上思い浮かべている	5	1種類	3		自然をステキ・すごいと思ったことがある	2
わからない	12	記述なし	3		ない・わからない	3

本実態調査は、連続3時間の主テーマ全体の構想のために行ったものであるが、本時の授業に関してはこれらの中で①と②が特に関係が深い。その2つの結果からは次のことがとらえられた(※実態調査③以下についての分析は、ここでは略)。

実態調査①「命は大切だと思うか」の結果からは、本学級の児童は命を大切だと思っていることがわかった。命が大切な理由としては「命がなければ生きていくことができない」といった記述が多く見られた。少数ではあるが「お金には代えられないかけがえのないものだから」といった以前の道徳の「お金に代えられないもの」の学習を思い起こした記述や「家族が一生懸命産んでくれたから」といった家族のことを思い起こした記述、「命は一人に一つだから」と言った命の平等性に触れた記述が見られた。

実態調査②「命を大切にしているか」の結果からは、命を大切にしていると思っている児童が多いものの、自分の命に対する記述が多く、自分以外の人や生き物、自然の命について記述している児童は少なかった。

3.4 教材観…「ヒキガエルとロバ」について

生命の危機を感じる場面でありながら、自力では何もできないヒキガエルに残酷な目を向ける子供たちと、自分も苦しい立場でありながら、ヒキガエルの命を何とか助けようとするロバの姿が対比的に描かれている寓話教材である。誰しもが経験のある生き物にいたずらをしてしまう子供を描きながら、ロバがヒキガエルを助けるという子供の日常からかけ離れた体験を描いている。児童の生活経験から近い体験が描かれた教材だからこそ、児童の生き物や自然の生命について考えていくことへの意欲をさらに高めることができる。また、児童の生活経験から遠い体験が描かれている教材だからこそ、分析的、多面的に思考を促し、自由な発想で考えを深めていくことができると考えた。生き物や自然の生命を考えるきっかけを作りたいと考え、児童にとって「近く、遠い教材」である「ヒキガエルとロバ」を主テーマの第1時として活用する。

※ここでは他の2教材についての記述は省略した。

3.5 指導上の工夫（アクティブ・ラーニング活用方法も含む）

(1) 複数時間を関連付けた大主題追求学習 …略

(2) 学習過程の工夫

児童が道徳的価値を自分のこととしてとらえ、考えを深められるように問題解決的な学習を取り入れ、学習過程を工夫した。児童の問題意識から本時のテーマを設定し、友達との話し合い多面的・多角的に考えていくことで、道徳的価値について一人一人の児童に自分が納得できる答えを生み出していくことができると考えた。

①児童の問いを生む発問、児童の受け止めから児童の問題意識を生み出す

児童にとって身近で、主体的に考えたいくなるように、や児童にテーマを選択させ児童の問題意識から学習過程を変容させていく。

②発問の意図を明確にした多様な発問

学習過程に、教材に合わせて発問の意図をもった多様な発問を効果的に取り入れ、児童が問題を追求できるようにしていく。教材やねらい、児童の問題意識に合わせて「共感的な発問」、「分析的な発問」、「投影的な発問」、「批判的な発問」を効果的に取り入れ、児童が問題を追求できるようにしていく。

③友達の発言から学び、成長できたことを実感させる発問

「友達の発言の中で「生き物の命との関わり方」について、「参考になった発言」「新しいことに気付いた発言」はあったか。」と投げかけ、友達の発言への受容・共感から学び、自分の考えの深まりや成長に気付かせる。

④自分の生き方について考えを深める発問

問題解決をもと児童一人一人に生まれた納得できる答えを、自分との関わりで考え、自己の生き方として思いや願いを深めるようにしていく。

(3) 道徳ノート、自己評価シートの活用

心ノートには、児童自らの考えをそのまま表現させていく。自分の思考を整理したり、発言が苦手な児童の考えを表出したりする場として活用していく。自分の思い、考えを文字に表出することは、自己実現や自己肯定感を高める上でも大切だと考える。児童には、心ノートの使い方として、以下のように示している。

- 学習した日付を書く。 ○テーマを書く。 ○お話の題名を書く。
- 授業中の気付き、感動、疑問点をできるだけたくさん書く。
- テーマ、発問に対する、自分の考えを書く。
- 友達と交流して、自分と違う意見や心が動いた意見をたくさん書く。
- 文字だけでなく絵や図、矢印などを使ってまとめる。
- 学習感想を書く。 ○家族と話し合ったことや、インタビューしたことを書く。
- 普段の生活で、さらに広がったり深まったりしたこと
- 見つける・実際に行う（実践する活動）の記録

道徳科の授業だけでなく、行事や他教科での学びや思ったこと・考えたことを、心ノートを活用し書かせていく。心ノートの活用によって、道徳科の授業を1単位時間で思考をとぎらせるのではなく、思考を広げ、授業と実生活をつなぎ、学びを蓄積していくことができるであろう。

また、学習の最後に、自分の学びを振り返り、自己評価シートでの自己評価活動を取り入れる。自己評価シートでは、

- ①学習への意欲（今日の学習は楽しかったか？）
- ②道徳的価値理解（ハッピーに生きるために大切なことがわかったか？）
- ③多面的多角的に考える（友だちの考えを聞いて、新しいことに気付いたか？）
- ④自己を見つめる（自分とのつながりを考えることができたか？）

⑤自分の生き方への考えを深めることができたか？

(これからこうしていこうを見つめることができたか？)

の5観点に対し、自分の学びを5段階で評価し、自分がつけた評価に対し、評価した理由を書かせる。自己評価活動を通して、自分が考えていることや理解の程度、感じていることを自分自身で感じ取り、それに応じて思考や学び、行動などをよりよい方向にコントロールする力を伸ばしていく。

3.6 評価を見取る視点とその姿 …略

3.7 大主題全体の指導計画 …略 (本時を検証対象としたため、ここでは略)

4. 本時について

4.1 本時の目標

- ・生命のあるもの全ては自分と同様に尊いものであることや体の大きさに関係なく平等に生命があり一つしかないことに気付き、命ある生き物を大切にしようとする態度を育む。

4.2 本時の学習指導過程 (①・②)

時配	学習内容と活動 ○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
導入 5分	1 大主題「生き物・自然の命と関わっていくには、どんなことが大切なのだろうか？」を確認する。 2 カエルに石を投げる子供たちの場面絵を見せ、感じたことを話し合う。 ・自分も生き物にいたずらををしたことがある。 ・生き物も命があるのに、ひどい。	・場面絵から感じた率直な感想を引き出す。 ・教師の小さいときの話話し、いたずらしたことのある児童への共感を示す。
展開 35分	2 「ヒキガエルとロバ」を視聴し、話し合う。 ○どんなことが心に残ったか。 ① アドルフとロバのちがい ・ アドルフたちはひどい。 ↔ ・ ロバがやさしい。 ② ロバはヒキガエルの命を助けたこと ・ カエルの命を大切にしているロバはすごい。 ・ ロバがヒキガエルを見つめているところ。 ③ アドルフの生き物との関わり方。 ・ アドルフが変わったこと。	・ 児童の受け止めを引き出し、自分が気になることはどれに近いかを問い、一番多いものから本時のテーマを設定する。
	(①から) アドルフとロバのちがいは、何なのだろうか？ ○アドルフとロバのちがいは何か。どうしてそう思うか。 アドルフ ・ 見た目の気持ち悪さで、命があることを考えていない。 ・ 命を大切にしていない。 ロバ ・ ロバはやさしい。苦しさを乗り越えてまで、カエルを助けているから。 ・ 命を大切にしている。カエルの命を救うために助けたから。	・ アドルフとロバを比較し、評価する活動を通して、多面的な思考を促し、アドルフとロバの生命観の違いを浮き彫りにしていく。
	(②から) なぜ、ロバはヒキガエルの命を助けたのだろうか？ ○ロバは、ヒキガエルを見つめているとき、どんなことを考えていたか。 ・ ヒキガエルがかわいそう。 ・ 荷物が重くて辛い。 ・ ヒキガエルをひいてしまうわけにはいかない。 ・ 小さい体でも命は大切だ。	・ ロバへの共感から、考えを深めテーマへの追求を図る。

	○なぜ、ロバはそこまでしてキガエルの命を助けたのか。 ・ヒキガエルと同じ辛い思いをしているから。 ・命に大きさをなてないと考えているから。 ・ヒキガエルにもロバにも人にも同じように命があると考えているから。 3 友達の発言から学んで成長できたことを実感し、生き物の命への考えを深める。 ○友達の発言の中で「生き物の命との関わり方」について、「参考になった発言」「新しいことに気付いた発言」はあったか。 ・命に体の大きさや見た目は関係ないという意見。 ・誰の命も大切にするという意見。 どうしてかというところ…	・ロバの行為の意味を考え、命の「唯一性」「平等性」に迫っていく。 ・友達の発言への受容・共感から学んで成長できたことを話し合う発問を設定することで、生き物の命について考えを深める。
まとめ 5分	4 生き物の命と自己とのつながりを考える。 ○今日の学習を通して、どんなことを考えたか。 ・虫にいたずらしてしまったことがある。 ・体の大きさに関係なく、一つしかない命だから大切にしたい。 ・苦手な生き物でも見守る、助ける。ぼくと同じように生きているのだから。	・自分の生き方への考えを深めることができるように学習したことと自分とをつなげて書く活動を設定する。

4.2 本時の学習指導過程 (③)

時配	学習内容と活動 ○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
導入 5分	1 大主題「生き物・自然の命と関わっていくには、どんなことが大切なのだろうか？」を確認する。 2 カエルに石を投げる子供たちの場面絵を見せ、感じたことを話し合う。 ・自分も生き物にいたずらをしたことがある。 ・生き物も命があるのに、ひどい。	・場面絵から感じた率直な感想を引き出す。 ・教師の小さいときの話話し、いたずらしたことのある児童への共感を示す。
展開 35分	2 「ヒキガエルとロバ」を視聴し、話し合う。 ○どんなことが心に残ったか。 ①アドルフとロバのちがい ②ロバはヒキガエルの命を助けたこと ③アドルフの命との関わり方。 (⑤から) アドルフの(生)命との関わり方について考えよう ○アドルフの生き物との関わり方を、どう思うか。 ・ヒキガエルをいじめていて、ひどい。 ・アドルフは、ロバの姿を見て変わった。 ・自分は悪いことをしていたと反省することができた。 ○なぜ、ロバはそこまでしてヒキガエルの横を通り過ぎていったのか。 ・ヒキガエルと同じ辛い思いをしているから。 ・命に大きさをなてないと考えているから。 ・ヒキガエルにもロバにも人にも同じように命があると考えているから。 ○アドルフは今後、命との関わり方についてどんなことを大切にしていくと思うか。 ・自分勝手な考えで、生き物の命を粗末にしないようになった。 ・小さな命も大切な命と考えるようになった。 ・一生懸命生きていく。 3 友達の発言から学んで成長できたことを実感し、生き物の命への考えを深める。 ○友達の発言の中で「生き物の命との関わり方」について、「参考になった発言」「新しいことに気付いた発言」はあったか。 ・命に体の大きさや見た目は関係ないという意見。 ・誰の命も大切にするという意見。 どうしてかというところ…	・児童の受け止めを引き出し、自分が感じたことはどれに近いかを問い、一番多いものから本時のテーマを設定する。 ・アドルフの変化の要因となったロバの行為の意味を考え、命の「唯一性」「平等性」に迫っていく。 ・友達の発言への受容・共感から学んで成長できたことを話し合う発問を設定することで、生き物の命について考えを深める。
まとめ 5分	4 生き物の命と自己とのつながりを考える。 ○今日の学習を通して、どんなことを考えたか。 ・虫にいたずらしてしまったことがある。 ・体の大きさに関係なく、一つしかない命だから大切にしたい。 ・苦手な生き物でも見守る、助ける。ぼくと同じように生きているのだから。	・自分の生き方への考えを深めることができるように学習したことと自分とをつなげて書く活動を設定する。

※実際の授業展開では、上記の①、②、③のうちで、②の問題を追求する授業となった。

4.3 本時の主題に関する評価

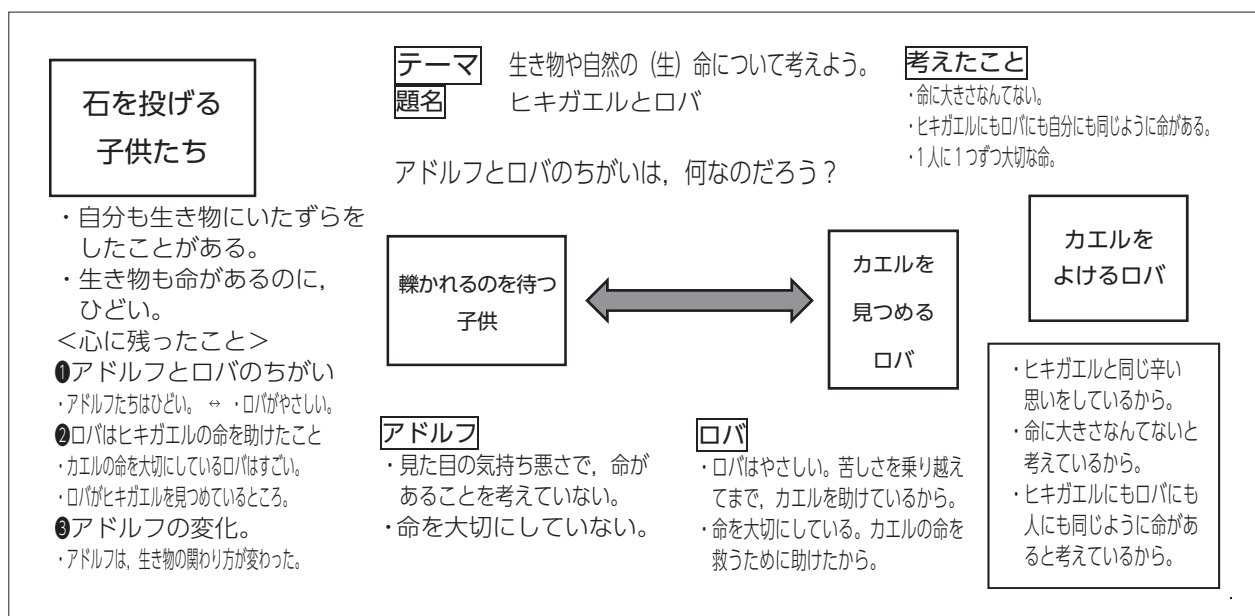
○生命のあるもの全ては自分と同様に尊いものであることや体の大きさに関係なく平等に生命があり一つしかないことに気付くことができたか。

(2や3の活動で、命の唯一性や平等性を視点に考えることができたか。)

○命ある生き物を大切にしようとする態度を育むことができたか。

(4の活動で、生命と自己との関わりを振り返り、自分の生き方への考えを深めることができたか。)

4.4 本時の板書計画 (①案)



※追求する問題を②としたため、本板書計画は実際には用いていない。